

因島高校を支援する会

発行 校を会
因島高 支 援 会
支 援 会 長 竹 中 啓 修
会 員 竹 中 啓 修
題 字 竹 中 啓 修

因島高校を支援する会 発足一年を振り返って

昨年十一月二十七日、「因島高校を支援する会」が発足し、みなさまの暖かいご支援のもと活動しています。今後共ご協力をお願いいたします。

因島の地域の高校として育てよう

因島高校を支援する会 会長 竹中 啓修

皆さんこんにちは。早いもので因島高校を支援する会の発足から一年を迎えます。ご承知のように、以前は高校が生徒を選ぶ時代でした。しかし、ここ数年は生徒や親が高校を選ぶ時代になってきております。因島高校も、高校としての魅力を増やすような事があってはならない。と言ふ事で、因島高校を支援する会が設立されました。まずは、授業参観に出席してみ、保護者の出席が少ないのに驚いておられます。今年、小中学校の参観も行き、より深く教育の現状を理解しようと思っております。

そして、学力向上対策として、全国的な進学予備校の「代々木ゼミナール」の通信衛星を利用した「サテライン授業」の導入支援をし、大きな成果を上げることができました。次に高校生らしい服装をという事で、頭髮・服装の厳しい指導を、学校・PTAにお願いし、着実に効果が現れてきています。

そのように、私達の努力の一つひとつは小さなものかもしれませんが、しかしその小さな努力を積み重ねることによって魅力ある学校が、出来るのだと思います。島に一つの高校をなくすことの無いようがんばりましょう。

地域から信頼され期待される学校

因島高校 校長 桶東 愛生

昨年の十一月、「因島高校を支援する会」を創設していただき、早くも一年を迎えようとしております。

「新」因島高校では、来年の二月の完成を目前に、広島県一の設備を持った立派な校舎が建設されております。

しかし、生徒確保の面においては樂觀が許されない状況にあり、十年先には本校の存続さえも危惧される状況がある。

因島高校は本気でです

因島高校PTA 会長 村上 正則

「因島高校を支援する会」は、満一年を迎えますが、竹中啓修会長をはじめ関係者の方々の地まめご努力のおかげと感謝しております。因島高校の保護者を代表いたしましてお礼を申し上げます。

さて、貴会のご支援により、学力向上対策の一つとして、昨年導入致しました「代々木ゼミ・サテライン講座」も多くの生徒が受講し好評を博しているところです。特に小論文講座では、定員を大幅に超える申し込みがあり、二クラスの開設になりました。

その受講生もいよいよ受験です。小論文試験を実施する推薦入試・就職試験では、その力を遺憾なく発揮してくれるものと期待しております。

次に、小論文試験により志望大学に合格した生徒もいます。来年は、今年以上の生徒がサテライン講座を受講し、進路実現を果してくれるものと確信しています。

次に、学力向上対策の第二弾として、「海外語学研修（ホームステイ）」を検討中です。海外語学研修は、広島県内のかんりの学校で実施しており、PTAとしても来夏には是非実現したいと考えています。

また、物的、精神的なご支援をいただいております。学校としても、地域の支援に応えるべく、信頼される学校づくりに努めております。

地域社会から、本校に期待されていることは、「学力の向上」「生徒指導の徹底」および、「クラブ活動の活性化」であると認識しております。

この三本柱の実現に向けて、支援する会をはじめ、多くの市民の皆さんのご協力のもと、教職員、生徒、保護者が連携して、取り組みを進め

今、因島高校は

因島高校教諭 黒木 潤

秋の日の放課後、澄み切った青空に鋭い音を立て白球が弧を描き、掛け声が明るくこだまする。そばではスパイクの走路を蹴るリズムカルな音に交じり、荒い息づかいが迫る。

管楽器の旋律が響く特別棟に目をやると、真剣な眼差しに額の汗が光る。

特別棟では、書画を仕上げの筆の静かな音、パソコンのキーボードの軽やかな音、ピアノの躍動的な調べが心地よく届いてくる。隣の機械棟は操作音が緊張感を漂わせる。教室では早朝に続いて補習がもたれ、白墨の音が静寂さを際立たせる。

校内では進路に向けて熱く語り合う声、額を突き合わせ難問に挑む姿、和やかな中に思いを共感し合う空間がみられる。

学校では、生徒の醸し出す音に満ち、音色が生徒たちの自己実現に向かっている。

私たちは、生徒が自己の可能性を引き出し伸ばすために全力で取り組んでいます。そのため、学力の向上を第一に掲げ、日々の授業に最善力を注いでいます。

総合学科は、生徒が進路や興味を元に科目を選択し、学力を高めていく学科です。

授業を基礎と応用に分け、生徒が選択する。早期や放課後また休業中の補習授業、勉強合宿の実施。衛星放送での予備校授業の導入。などを積極的に導入、活用しています。

又、各種検定試験の合格率向上に向け、事前の講習をきめ細かく設定しています。もう一つは、自律と自立に根ざした生活習慣の確立です。生徒が自らを律し、自らの判断で行動するために厳しさと温かさ、さらに粘り強い

生活指導を学校総体で進めています。私たち教職員は、地域にある高校はどうあるべきかを常に真摯に考え、生徒と織り成す首の二つが学校を造るとの理念を持って全力で邁進しています。

生徒の懐に届く教育をめざして

因島高校教諭 三木 武彦

時代は大きく変貌しようとも、因島高校には毎年思春期の真っ只中におかれた生徒たちが入学してきます。学力のしんどい生徒はそれ自体全身で訴えますし、寡黙で引きこもったり、教師へ激しい反抗する生徒たちもその生徒の有り様でしきりに訴えてくるわけです。訴えの裏側には、計り知れない闇が広がり、苦悩に満ち自己表現すらできない悲しみが幾重にも層をなしてうごめいていることに気づかされます。

だからこそ、彼らの思いを受け止める私たちの基本姿勢として、学習や生活面で「持て余す」「指導に反発してくる」生徒がいるならば、学校の秩序は守れなくなるという排除の論理で切り捨てたり、そつした生徒を「教育の枠から逸脱しているから」と学ぶ権利を奪うことだけは絶対に

加しません。九月二十九日(土)重井校舎にて、オープンスクール(体験入学)が行われました。来春、高校入学を迎える中学三年生に、高校を實際の目で確かめてもらい、因島高校に是非入学してもらおうと企画実施されました。市内及び近隣の中学三年生二五七人が、参

「因島高校を支援する会」因島高校PTAは、因島高校を代表してクラブ活動など大会試合に参加する生徒を励ます目的で、横幅八メートルの大横幅幕を二枚、学校に寄贈しました。陸上部、野球部など、各

クラブが対外試合に持参しています。多くの市民が、因島高校を応援しているんだと思つて、がんばってほしいものです。平日は、重井校舎の壁に大きくはりだされ、登下校する生徒を暖かく見守っています。

大横幅幕寄贈



因島高校では国旗の常時掲揚がはじまりましたが、秋に行われたすべての市内小学校、中学校の運動会会場に、国旗が掲揚されました。入場後進のあと開会式が開催され、国歌君が代の曲が流れる中、国旗が掲揚され、秋晴れの空にはためきました。見学に来た保護者や市民は、久しぶりに学校にはためく国旗を感慨深くながめていました。

小中学校運動会で国旗掲揚

因島高校では、県の制度に基づき、評議員を委嘱しています。評議員とは、高校の外部の人で、学校長に対して、高校の諸問題について検討し具申するものです。

九月十八日、第一回の会議(全日制)が開催され、校長から現状報告を受け、問題点や今後の進むべき方向について協議しました。なお、評議員は、竹中啓修(同窓会長、支援する会会長)、村上富男(はたる会会長)、村上正則(PTA会長)、岡野隆一(青年会議所理事長)の四名が委嘱されています。

因島高校 評議員会開く



因島高校では、県の制度に基づき、評議員を委嘱しています。評議員とは、高校の外部の人で、学校長に対して、高校の諸問題について検討し具申するものです。

まず桶東校長挨拶の後、総合学科の説明、高校での学習内容や進路について説明をうけたあと、学校紹介ビデオを視聴覚特別室で見ました。その後、興味のある学科に分かれて、模擬授業を受けました。

オープンスクール開催

みなさんのご支援ご協力をよろしくお願い致します。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

因島高校PTA事務局
重井校舎(赤畑教頭) 08452-4-1281
土生校舎(藤本教頭) 08452-2-2133

因島高校では、県の制度に基づき、評議員を委嘱しています。評議員とは、高校の外部の人で、学校長に対して、高校の諸問題について検討し具申するものです。

因島高校PTA、実施校視察

来年夏実施に向けて始動

PTAでは、すでに実施している高校を訪問し、取組に至る経緯、行政の支援の実態、また、研修後の生徒の感想、町の反応等について、視察してきました。

訪問した高校は、因島高校と同じ地元中学生の流出という問題を抱えながらいかにして実績と魅力を高めるか努力し、がんばっている高校です。

また、いずれの町も助成金をだしたり、町広報で大々的に報告記事や体験談を掲載するなど、町をあげて高校の活性化に取り組んでいるようです。

桶東校長は、前任の御調校長時代同様の活性化のため、町や支援団体と連携して海外研修を位置づけられており、「因島高校でも是非実施したい」と意欲的に話しておられ

「因島高校を支援する会」としても、この研修は因島高校の活性化、ひいては因島地域の活性化に寄与することになるので、ぜひ来年度から実施されるよう支援していきます。

またPTA並びに因島高校を支援する会は、因島市と因島市教育委員会に対して、支援を要望しているところで

特集 海外語学研修 (ホームステイ)

因島高校では、「海外語学研修(ホームステイ)」について、PTA(村上正則会長)から提案があり、国際化に対応した人材育成、そして因島高校の魅力向上のため、実施に向けて桶東校長や先生方とともに、本格的に研究検討することになりました。

桶東校長は、前任の御調校長時代同様の活性化のため、町や支援団体と連携して海外研修を位置づけられており、「因島高校でも是非実施したい」と意欲的に話しておられ



東城高校(荒木建一校長)は、少子化と中学生の町外への進学等により生徒が年々減少していった。昭和五十九年、町をあげて東城高校を守ろうとすることで、東城高校の将来を考える会が発足し、その後「東城高校を育てる会」と改称され昨年度より、会長は東城町長が選ばれ、高校の活性化のため年間四〇万の町予算が組まれています。

また東城町では、五年前から国際化に力を入れ、隣の島根県横田町とともに、毎年中学生一五名を海外研修に送っていますが、参加した生徒の多くが町外の高校へ進学してしまつた実態から、地元東城高校の活性化のために、十三年度から東城高校の研修事業も実施され、町も助成金を新たに設けることになりました。

八月に十一日間、ニュージーランドのクライストチャーチ市(南島)でホームステイを直に聞くことにより、研修のすばらしさ、高校での成長ぶりを実感してもらい、高校への入学希望者の増加につなげています。

「分校振興対策協議会」には、語学研修を含めて町から毎年三五〇万円の助成があります。

東城高校 ニューゼーランド

しながら同市内にある国立のポリテクニク専門学校で、語学研修、幼稚園、小学校、高校等を訪問しました。生徒達は「異文化にふれ、いい経験ができた」「いろんな感動

御調高校 オーストラリア

御調郡御調町は「福祉の町」として有名で御調高校(迫澄雄校長)の活性化の方向性にも関与しています。

地元御調中学から御調高校の進学率は五〇%を割った年もあり、こういう事態を憂い、地域の期待と要望に貢献できる人材育成を目的として平成十年三月、「御調高校育英会」が結成されました。

育英会の事業の一つとして、海外ホームステイ研修の支援をおこなっていますが、「福祉の町御調町」ということで、福祉活動を体験することも目的としています。

平成十一年十二月、九名の生徒が、オーストラリアのシドニーを訪れました。この研



(東城高校) 小学校児童にオリヅルを教える



(御調高校) 高齢者施設を訪問

高校	研修先	1人当費用と補助	高校の支援団体等
庄原格致高校 高野山分校	ニュージーランド	31万のうち 15万補助	高野町 分校振興対策協議会
東城高校	ニュージーランド	29万のうち 10万補助	東城町 東城高校を育てる会
御調高校	オーストラリア イギリス	27万のうち 15万補助	御調町 御調高校育英会
日影館高校	オーストラリア	研修費用の 1/3補助	吉舎町 三良坂町 日影館高校振興協議会 国際理解教育推進事業補助金

日影館高校 オーストラリア

日影館高校(末信丈夫校長)は、明治十三年、農村の子弟に教育を願う建学され、昭和四十四年県立校になり、現在を迎えています。

最盛期一学年八学級ありましたが、来年入学定員八〇名と生徒数も激減して、地元吉舎町からの入学生は八〇%隣町三良坂町から四〇%という現状です。両町には同校出身者が多く、この状態を憂慮し、「日影館高校振興協議会」が両町長、両町教育長、PTA

会長他学校関係者をもって設立され、両町から助成金が出されています。

昨年六月には、東進予備校の衛星放送による補習授業を実施することになり、夏期補習が実施されました。

同校は、普通科の中に「国際コース」をもうけ、生徒の育成をめざしていますが、吉舎町は支援策の第二弾として、「国際理解教育推進事業補助金」制度を新設し、海外語学研修の補助金としていた



(日影館高校) 浴衣姿で吉舎音頭を披露

庄原格致高校 ニューゼーランド

庄原格致高校高野山分校(松本憲由分校長)は、島根県境の広島県比婆郡高野町にあり、現在生徒数五七名で、高校、PTA、同窓会はもとより、町をあげて学校の存続に取り組んでおります。

一時期生徒数が三〇人台に落ち込みましたが、高校の火を絶やすなど、町は、平成七年「分校振興対策協議会」(会長藤原町長)を設置し、地域をあげての支援の輪が広がっています。(隣の比和町の比和分校及び口和町の口和分校が廃校になり、危機感が大きかったようです。)

「田舎の町だからこそ、国際化が必要だ」という発想

今年四月には、町長と分校長がニュージーランドを訪れ、姉妹校提携と姉妹都市縁組について協議がおこなわれました。その後町も交流を一層深め、英語指導助手の女性をニュージーランドから招聘することとなり、高野町では、小中高校での国際交流や英語学習に大きく期待しています。

参加した生徒は、「二、三日すると、日常会話で相手は何をいっているかわかってくる。物理の実験もおもしろかった。」「ニュージーランド研修に参加したいと思って入学した。」と話してくれました。

さらに研修生による中学校での報告会も企画されており、彼らの研修の成果や体験



(高野山分校) クライストチャーチ市議会訪問

その後の研修の様子をビデオに撮って持ち帰り、これから中学校の生徒募集に、ビデオを持って中学校訪問に回るそうです。吉舎町も町広報で大きく取り上げるなど、PRを進め、町学校あがりの高校支援がはじまりました。

なお、学校開放と地域の教育力を学校に取り入れることをねらいとして、同校の空き教室を多目的教室と和室研修室に改造するなど、高校の関心が高まりつつあります。

